

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4570102279		
法人名	社会福祉法人 春生会		
事業所名	希望山荘		
所在地	宮崎市大字郡司分乙1590-1		
自己評価作成日	2020年6月20日	評価結果市町村受理日	令和2年8月30日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 https://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/45/index.php?action=kouhyou_pref_search_list_list=true

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	社会福祉法人宮崎県社会福祉協議会
所在地	宮崎市原町2番22号宮崎県総合福祉センター本館3階
訪問調査日	令和2年7月22日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

グループホーム希望山荘は、住宅地の中にも関わらず、多くの大木や小さな山に囲まれた自然豊かな環境にあり、入所者と介護職員は第2の家族として静かに楽しく暮らしている。開設当初からの理念を、12年ぶりに見直し、引き続き大切にしていこうと、新たに大切にしようとしたことを盛り込み新理念を作成した。年に2回の外食や、近隣の方やご家族を招待してのバーベキュー、毎月のドライブなど屋外活動にも力を入れているが、可能な限り個別での散歩やドライブ、買い物など お一人おひとりへの対応力を上げることを意識している。今後も、その方の時間の流れを大切に、その方のペースで日々を送ることができるようお手伝いをしていきたいと思っている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

同敷地内に小規模多機能事業所があり、顔なじみの利用者を訪ねたり、一緒にレクリエーションに参加するなど、日常的に交流している。理念を基に、利用者の持てる力を活用し、利用者が尊重され、地域の中で笑顔で過ごせるよう地域との繋がりと、心に寄り添うケアの実践に取り組んでいる。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印		項 目		取 り 組 み の 成 果 ↓ 該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I.理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事業所内の目につきやすい場所に掲示し、度々見返すように意識している。職員間で話し合う機会も確保しており、統一したケアを心がけている。	昨年、全職員で理念を見直し、地域との繋がりと、利用者の持てる機能を日常に活かし個々の自立を高め、心に寄り添うケアに取り組んでいる。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	天気の良い日に散歩に出かけたり、日用品などの買い物へ行ったりして近隣の方と顔見しりになって頂ける様にしている。また、避難訓練、バーベキューなど催しごとに参加していただき交流を深めている。	地域行事の文化祭や運動会、防災訓練への参加、事業所のバーベキューなど、日常的に交流に努めている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	催しごとに参加していただき、認知症の方と触れ合いの時間を持っていたい。普段の日常生活から、対応やケアの方法などを直接見ていただき説明している。実際に相談がある場合は、相談スペースを確保している。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	最近の入所者の状況を報告し、助言をいただくようにしている。また、ホームの催しごと、活動や取組、ご家族からの要望についても報告し、意見を頂くようにしている。自治会内の比較的小規模な班長会などの開催場所を提供するよう呼びかけている。	会議では、活動内容や行事案内、利用者状況等を報告している。年数回は、小規模多機能事業所や運営推進員の他、家族も参加し、情報や提案をサービス向上に生かすよう取り組んでいる。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	保険者の主催する研修会への参加を積極的に行っている。また、疑問点を明らかにし、新たな情報を獲得した際は皆で共有するようにしている。生活保護受給者の状況を市社会福祉課の担当ワーカーさんへ報告するようにしている。	法人やホームから担当課に相談したり、市の研修などの講師として協力するなど、協力関係の構築に取り組んでいる。利用者個々に関する担当部署への相談や連絡も行い、連携に努めている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「介護指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束適正化の指針を整備し理解、防止、廃止に努めている。また職員間では毎月のように、3つの要素「切迫性」「非代替性」「一時性」を確認し、話し合いを持つようにしている。	研修やカンファレンスで、職員全員がスピーチロックも含め、その弊害について理解し、身体拘束をしないケアに取り組んでいる。日中玄関は開放している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	入居者の身体の状態(あざや傷の有無)を把握できるよう、職員間で状態報告を行っている。また毎月のカンファレンスで職員のストレスチェックを行い、適切なケアが行えるようにしている。		
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度についてのパンフレットや資料を用い研修会を開催している。現在、制度を利用されている方が入居されており、後見人の方が来荘されたときは活動内容を尋ね、学びを深めている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居時や介護保険制度の改正時、また重要事項の変更時には文書を用い説明を行っている。一通り説明が終了した後、質疑がないか尋ねるようにして理解や承諾を確認している。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	ご家族の面会時や催し事へ招待した時に、ご意見やご要望などがいないか尋ねるようにしている。頂いたご意見は運営推進会議、毎月のカンファレンスで共有し、改善策などがあれば、すぐに実践するように心がけている。	「春生会だより」を見て、家族が意見や希望が出しやすいようテーマ表示するなど工夫している。家族の面会時には日々の様子を説明し、より具体的な意見や提案を収集し運営への反映に努めている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月のカンファレンスは、職員全員が意見を出せるように配慮している。新しいことへの試みや課題解決に対する提案など、すぐに反映できるようにしている。	毎月のカンファレンスは、職員全員が意見を出しやすい雰囲気づくりに努めている。提案により、リビングの壁にボードを新設し、写真や作品などを掲示するなど、意見を反映させるよう取り組んでいる。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員一人ひとりの出勤状況、研修会への出席など把握し昇給を検討してくれる。資格取得の際は研修参加に理解を示し、受験料も出してくれる。年に1回環境や備品のチェックを行い、常に気持ちよく働けるよう配慮してくれる。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	外部への研修参加に理解を示し、法人内部での研修計画も積極的である。また仕事とは無関係のサークル活動参加にも軽食の提供をしてくれるなど協力的である。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	連絡協議会に加入して他法人の同業種の方との関わりを持つことができている。地域包括支援センターの企画する、他の介護事業所との合同研修会に参加し、意見交換をする機会を持つことができている		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居前に本人と直接お話を伺い、入居への不安や戸惑いをできる限り最小限になるよう寄り添うケアを心がけている。また、ご家族から本人が安心感を得られるヒントを頂き、笑顔に努め信頼関係を築いている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入居前は、ご家族の困りごとや不安な気持ちに寄り添い、しっかりと傾聴するように努めている。また、説明不足や言葉足らずで誤解が生じないように留意し、初めのうちは細かく報告するようにして信頼関係を築いている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	入居しサービスを初めて行う時は以前の情報や医療情報などよく見極め、危険性が無いか確認してから行うようにしている(入浴など)。医療依存度が高まった時はその方にふさわしいサービスや制度を提案するようにしている。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	同じものを一緒に食し、感想を述べ合ったりしてありきたりの日常の時間を共有している。また、買い物、掃除などその方のできる範囲で一緒に行うことで、ともに暮らしていると実感していただき、第2の家族づくりに努めている		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	できる範囲で面会の機会を続けてもらえるよう依頼している。入居者は面会をとても喜ばれることや、お見えにならない日にはしっかりとご家族の代わりを努めていることとお話し、職員一同、ご家族と同じ気持ちでいることを示し関係づくりに努めている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前に通っていた理美容店へ送迎し、関係を途切れないように支援している。またドライブの行き先は希望を募り、懐かしい風景を見に思い出の場所へ出かけるようにしている。	利用者や家族から情報を収集し馴染みの人や場所など把握し、外食やドライブを行事に取り入れている。贈答品のお礼の電話、隣接の事業所利用の友達との交流、美容院利用等、関係継続ができるよう支援している。	

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者の相性など把握し日常生活が気持ちよく送れるように配慮している。職員が間に入ることによって孤立を防止するようにケアにあたっている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	可能な限り退去後の様子を伺うようにしている。状態によってはご家族からの相談を受けることもある。亡くなられた場合はお通夜へお邪魔してお別れに行くようにしている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	入居前の情報を根拠に、気持ちや希望を聞くようにしている。相談しやすい関係づくりの構築や、日々の会話や行動からも本人の本意を探っていくようにしている。カンファレンスを用い職員の情報共有にも努めている。	入居が決定すると家庭訪問し、本人や家族の思いなど情報を収集している。心を通わせる日々の中で、表情やしぐさ、服装や美容へのこだわりなど、職員が気づいた情報を積み重ね、共有しながら意向の把握に努めている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居される際に、これまで利用されていた介護事業所や一緒に暮らしてきたご家族からできるだけ多くの情報を頂けるようお願いしている。本人の若いころの様子がわかるようにお子様以外のご家族(配偶者や弟妹など)からもお話を聞くようにしている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	毎日の暮らしの中で、できる限りその方の時間の過ごし方を大切にするようにしている。起床時刻は大体決まっているが、就寝時刻は(体調が良ければ)特に定めておらず、任せている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人やご家族からの要望には、全職員で検討している。本人、ご家族が望まれることが心身状態の低下をもたらすことにならないか、十分検討してから課題を掲げ、介護計画を作成するようにしている。	本人や家族の意向を踏まえ、残存機能を活用し、自立を阻害しないものであるか、全職員で検討し介護計画を作成している。定期的にモニタリング、見直しを行い対応している。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	目的に合わせて、記録している。日々のケアの日誌と別に医療面についてのノートがあり、そのほか、特別に状態が変わった時などは個人ノートに記載し情報の共有に努めている。介護計画作成時は目を通し目標の立案のヒントを得るようにしている。		

宮崎県宮崎市 グループホーム「希望山荘」

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者の心身の状況に応じてその日のプログラムの変更は担当する介護職員で検討し変更できるものとしている。急な場合でも柔軟な対応ができるように取り組んでいる。また、毎年恒例の行事以外にも、新しい発想を持ち、マンネリ化を予防している。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の広報誌を見て、地域資源を探っている。現在は、地区の社会福祉協議会の職員さんや、近くの郵便局長さんに依頼し、ボランティアの演奏会を企画したり、利用者さんのご家族にハーモニカ演奏会を依頼したりしている。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	出来る限り入所前の主治医を継続してもらう。そのことによって本人が今までのつながりを維持でき、入所後も安心感を持ち、必要な医療が受けられるようにしている。	入居前からの主治医が往診し、家族による外来受診の場合は、利用者の状況を提供し、受診支援に取り組んでいる。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	6名の介護職員のうち1名が看護師である。入所者ごとに医療ノートを作成し、情報を共有できるようにしている。また敷地内の他事業所の看護師に相談することもできるため、医療面の不安を相談できる体制がとれている。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	できるだけ早く入院時情報提供書を作成し届けるようにしている。非日常的な入院生活で本人が少しでも困らないように普段の様子を記すようにし、退院後もスムーズに施設での生活に戻れるように支援している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重症化した場合は入所前の本人と家族の意向や希望を中心に話し合いを持つが、気持ちの変化にも留意し、何度も話し合いを行い検討を重ねるようにしている。医療機関とご家族の意思の疎通もスムーズにいくように支援するようにしている。	救急時、重度化、終末期に対して、本人や家族に説明し希望を把握しているが、状態の変化に伴いその都度話し合いを重ねている。主治医や職員の協力の下、終末期ケアに取り組んでいる。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時に誰でも119番通報が落ち着いてできるようにマニュアルを作成し電話近くに張っている。また、初期の手当では看護師の指示のもと、誰でもできるように物品の確認、補充は定期的に行っている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	避難訓練は火災、地震、水害と様々な想定のもと年間計画を立て、毎月行うようにしている。特に消防訓練に関しては、近隣の方の参加を依頼し協力していただいている。	火災による避難訓練は夜間想定を含め、地域から4～5名が参加して年2回実施している。また、毎月、利用者中心の防災、避難訓練を行っている。	地域の支援者の把握と避難ルートや避難場所の表示、利用者の身体状況（独歩、車いす等）を自室に表示するなど、命を守る一層の取組を期待したい。
Ⅳ. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入所者に対し、人生の先輩であることを念頭に置き言葉使いには留意して接している。個人の部屋は必ずノックして入室するようにし、プライバシー確保にも努めている。	利用者への言葉遣いや、同意や許可を得ての対応を行い、誇りを損なわないよう努めている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	レクリエーションやドライブの行き先など入所者の皆さんで決めてもらっている。日常的には可能な限り今日着る洋服のコーディネートなど自己決定を促している。難しい方には、クローズドクエスションを用い同意を得るようにしている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	その人の動きの速度に合わせて支援を行っている。時間をもてあましていた様子があれば、家事手伝いを促したり、希望があれば自室で趣味活動などできる様に環境を整えている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の整容時に洋服選びを共に行い、身だしなみが整うよう促している。髪が伸びた時にはヘアピンなどで整え、清潔に見える様に支援している。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員が一緒に準備や食事、片付けをしている	可能な限り、食卓と一緒に整え配膳を共に行っている。ご飯、汁物、おかずに加え、デザートも必ず添える様にして楽しみを持ってもらえるようにしている。郷土料理（冷汁など）や季節の野菜を使った料理を提供できるように工夫している。	普段は法人施設で調理、配食されているが、月4回は、ホームで利用者と一緒に野菜を収穫したり、食材の下ごしらえをするなど、食事が楽しみなものになるよう支援している。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	できるだけたくさん食べていただけるように食事形態に気をつけている。食事摂取量は記録し、栄養状態把握に努めている。エアコンを使用しているため脱水予防のため頻回に水分を進める様にしている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きは声かけし促している。自力でできない方については口腔ケアを行い、いつも清潔な状態が保てるように支援している。		
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入所者一人ひとり、日々の排泄チェック表を作成している。これによって排泄パターンを把握し、声かけやトイレへの誘導を行っている。	排せつパターンを把握したり、トイレ誘導や、使用するオムツを検討して、失禁を予防し不快感の軽減に努めている。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	入所者一人ひとり、日々の排泄チェック表を作成している。これによって排泄(排便)パターンを把握し、場合によって乳製品の提供、運動の促し、服薬調整を行うようにしている。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入所者の健康状態を確認し、入浴支援を行っている。洗髪やシャワー浴など希望を尋ねて行っている。シャンプーやボディソープにこだわりが無い確認し個別に対応している。	入浴は週2回で、同性介助、入浴剤やシャンプー類の嗜好を聞き、入浴を楽しめるよう努めている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	お昼寝は、リラックスできるように自室で行ってもらっている。昼夜逆転にならないように生活リズム作りを促し、夜間も部屋の明るさや温度に留意している。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	入所者一人一人に、医療ノート・薬効書綴りを作成している。その人の疾患に対する内服、頓服など理解できているが、誤薬防止のため、薬が届いた時点で内服の変更が無い確認し、また服用前にも毎回確認し服薬支援を行っている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	入所前からの楽しみや役割りが継続できるように、それぞれに声かけしている。家事や趣味活動、昼寝や、就寝前の少量の飲酒など、ご家族と相談しつつ進めている。		

自己	外部	項 目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	頻回に庭先に出て、山や草花を眺め季節を感じてもらえるようにしている。時には一緒に買い物に出かけたり、コンビニで軽食を購入し、外で食べたりしている。月に1回、みんなでバスでドライブに出かける計画を立てている。	普段は敷地内を散歩しながら季節の変化を楽しんでいる。毎月1回、施設のマイクロバスを使用して、希望する場所へドライブするなど、外出支援に取り組んでいる。	
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	日ごろはお金を持たせていないが、買い物に出かけるときは、家族から預かっているお金から千円手渡し、好きなものを購入してもらうようにしている。(ご家族から許可を頂いた限られた方のみ)		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	家族からの電話はその都度取り次ぎ、本人の希望に合わせて電話をかけたり、手紙を投函するお手伝いを行っている。また、家族からのお届けものが届いた際は、お礼の電話を入れる様に提案している。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	室内の温度調節や換気に注意している。共用の場所は日々の清掃や消毒を行うことで清潔に保っている。壁面には入居者の作品や四季を感じられるような飾り付けを施している。玄関には生花を飾り、ベランダのプランターで植物を育てている。	共用空間は、空気清浄器やエアコンを使用し、過ごしやすい環境に配慮している。バリアフリーで手摺りがあり、床に物を置かないようにして転倒防止を図っている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	適時、椅子やソファを動かし共用の場所にいくつかの集う場所を作っている。気の合う同士でおしゃべりを楽しんだり、製作活動に勤しむなどしている。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	入所当初は違和感なく休める様に、自宅で使っていた布団を使用してもらうように勤めている。他にも使い慣れた椅子や家具を持ち込むことで自宅生活の延長を感じてもらえるようにしている。また、家族の写真を張るなどしてその方の好みの部屋作りをしていただいている。	部屋ごとに色違いで表れを付け、自室に迷わないよう工夫している。本人や家族で居室の配置や布団、たんす等を持ち込み、過ごしやすいよう工夫している。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ワンフロアで見通しの良い作りになっている。所々に手すりが設置してあり伝って移動できるようになっている。部屋の扉の色がそれぞれで、自分の部屋の色の意識ができて間違える人がほとんどない。少しでも転倒や躓きの危険を防ぐため、床にものを置かないように心がけている。		